

おおせっからんど便り

NPO 法人おおせっからんど
第 33 号 2024 年 12 月



写真：塚本康太

南極と仏沼

塚本 康太（国立公園管理官）

仏沼は令和 7 年 11 月をもってラムサール条約登録から 20 年を迎えることになる。これは仏沼とその生態系に価値を見だし保全してきた皆様による努力の賜物だ。

さて、日本から遠く離れた南極にも仏沼と同じように国際的な条約の下で保護された地域がある。南極条約に基づく南極特別保護地区（ASPA）と呼ばれる保護区であり、南極の中でも環境や科学などの観点から顕著な価値を有する地区が指定される。日本が活動する昭和基地の近くで言えば、ラングホブデ露岩域の雪鳥沢と呼ばれる谷がそれに該当する。

雪鳥沢はその名の通り、ユキドリと呼ばれる鳥の集団営巣地である。陸地の多くが氷に覆われた南極大陸において、ユキドリのフンなどによる有機物供給がある雪鳥沢は希有なものであり、それによるコケ植物や地衣類などの比較的豊かな陸上生態系が存在する地域である。

南極では、このような場所をオアシスと呼ぶことがあ

る。一般的に想像される、砂漠の中にある緑地のオアシスと異なるものに見えるが、厳しい環境の中で希に存在する生物多様性の高い場所と考えると納得がいくのではないだろうか。

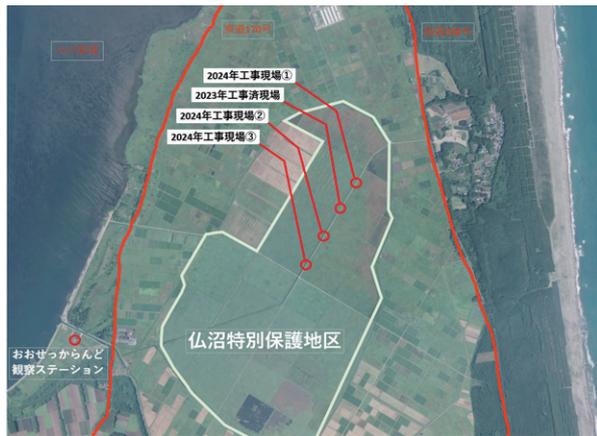
そして仏沼も、そのヨシ原・低層湿地としての高い生物多様性はオオセッカをはじめとした希少鳥獣のオアシスであり、南極のオアシスと同じように価値のある地域と言えるだろう。（無論、氷河には氷河の、砂漠には砂漠の生態系があるように、仏沼周辺の農地や海岸湖岸にも生態系があり、生態系の多様性の観点からそれぞれにも価値があることは言うまでも無い。）

塚本 康太（つかもと こうた）

1991 年愛知県名古屋生まれ。2015 年琉球大学農学研究科亜熱帯農学専攻修了。同年環境省に入省。主な赴任地は石垣島（沖縄県）、支笏湖（北海道）、知床羅臼（北海道）。2023 年 11 月より行政機関職員として第 65 次南極地域観測隊（夏隊）に同行。現在は三陸復興国立公園管理事務所八戸管理官事務所（八戸市）で国立公園管理官として勤務。

仏沼ダム工事（第2期）の施工と成果

佐々木 紀元



仏沼の湿性回復に向けた事業は、2023年の第1期に引き続き、2024年第2期工事を無事施工実施致しました。施工に参加された会員の皆さんも「満足度高い」と好評でした。さて、第1期の試作（1ヶ所）結果を受けて、第2期の工事は重機を入れて3ヶ所ダムを施工するというものでした。

計画立案から資材調達～搬入、施工にご協力頂ける職人さんの手配などの事前準備を工事実施日までに完了し、会員の皆さんへボランティア募集の連絡を入れて、いざ工事当日を迎えました。

工事期間は2024年6月1日（土）～6月3日（月）の3日間、中日の6月2日（日）が堰を積み上げる大仕事の日で、参加されたボランティアさんも土のう作りに精を出してくださいました。また、重機による細かい作業を真近で見学するような機会があり、その仕事ぶりに皆さんからオペレータさんに拍手が送られ、こんな現場は初めてだ、と重機オペさんも感心されていました。

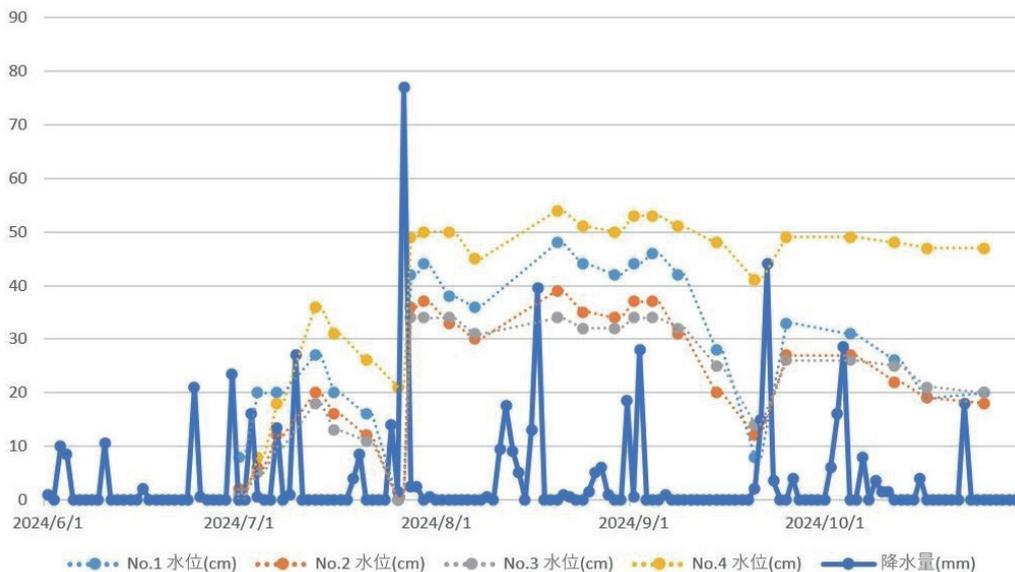
施工後、7月から10月までの間、どれだけ水を蓄えられたか、水位調査を行っています。去年の時点で、今回施工となった3ヶ所は排水口から何ら堰き止められることなく雨水が流されてしまっていて、硬い地表にスギナなどの乾燥した土地を好む植物が生えていました。施工後は雨水が堰に溜まって水鳥（カモやクイナ）が入っているほどになっています。

掲載のグラフは6月から10月までの三沢市の降水量と各ダムの水位計測結果を表したものです。7月27日の大雨によって各ダムの水位が上がり、9月上旬まで水位がほぼ維持されていることが分かります。

今後、このような湿性回復事業の効果が出て、様々な生き物が暮らせる環境が維持されることを切に願います。

写真、グラフ：佐々木紀元

三沢市の降水量と施行地水位調査の結果



おおせっからんど仏沼パネル展

三戸 貞夫（NPO 法人おおせっからんど理事）



2024年11月16日（土）から11月24日（日）まで、青森県立三沢航空科学館で「仏沼パネル展」を開催しました。9日間の期間中来場者数は618名で、おおせっからんど会員が撮影した鳥の写真、仏沼の乾燥化対策の活動を紹介するパネルなどを展示しました。大型モニターで鳥や花、風景などのスライドショーも見られるようにしました。期間中の土日だけの開催ですが、無料でできる「押し花づくり」が特に人気でした。



押し花の作品



展示された鳥の写真（ハイタカ、三戸貞夫）



押し花づくりの様子

仏沼の虫 コニワハンミョウ

長瀬 京子

2024年10月6日（日）、仏沼野鳥観察ステーションの砂地で、小さな穴から砂を掻き出し、出たり入ったりしているコニワハンミョウを見つけました。まわりに数匹飛び交っていて動きが早く、近付くとパッと1～2m程前方に着地する動作を繰り返していました。コニワハンミョウは体長10～13mm、河原などの砂地に多く、晴れた日はよく活動し、曇りの日は石の下、ゴミや流木の下などで休み、おもに他の昆虫を食べています。同年5月26日（日）高瀬川放水路の砂地でも確認しています。



教えて！野鳥撮影④ 一群れの撮り方

1羽じゃなくてたくさん集まる群れを撮りたい！狙いをどこに定めれば良い？

そのみん：冬は小鳥の群れやカモの群れがやってきますね。でも、群れは、一体、どこにピントを合わせて、どう撮ったらいいかが難しいです。

のりり：群れの種類にもよりますが、例えば、飛んでいるカモの群れを撮影する場合、オートフォーカス（AF）エリアを「1点AF」や「スポット1点AF」ではなく「領域拡大AF」や「フレキシブルゾーンAF」を選択してAFエリア（ピントの合う範囲）を広げて撮影します。「全域AF」を選択した場合、隅にいる鳥にピントが合ってしまうこともあるので「全域AF」は選択しません。「どう撮ったらいいか」についてですが、なるべく中心にピントを合わせたい被写体（鳥）がいるような構図だと撮影意図が伝わりやすいと思います。

基本は撮影する鳥の生態を把握すること。食べているものや飛びたち方など習性を把握し、こんな場面を撮ろう、その中心はここにしようというイメージをたてて臨みましょう。そのみんもだいぶ鳥に詳しくなりましたよ。

そのみん：冬はさまざまなカラ類が一緒にいるとか、だんだんわかってきました。撮りたい場面が、数羽の群像の場合は、広い範囲にピントを当てたいですね。

のりり：奥行のある鳥の群れ全体にピントを合わせたい時には絞りを絞る（＝F値を大きくする）、1羽にピントを合わせ前後の鳥はぼかしたいときには絞りを開けます。絞りに対する被写界深度（奥行）はレンズによって違いがあるので調べてみてください。「どのように撮れるか」が体得できるようにいろんな設定（シャッタースピード、絞り、ISO）を試してみるのが良いですよ。

そのみん：そうですね。何事も練習なくして上達なし！カメラの説明書に「領域拡大AF」や「フレキシブルゾーン」は、動きのある被写体を捉えやすいと書いてありました。飛んでいる群れの撮影も練習してみたいと思います！

カメラ超初心者のそのみんが、のりり先生から基本とコツを教わる紙面写真講座。



仏沼にいた“サギ集団”。真ん中のダイサギ（頭部）にピントを合わせ、F8.0、SS1/640、ISO250、1点AFで撮影。サギのいる奥行の範囲が広がったので、被写界深度を深くするためにもう少し絞り、フォーカスを広くしたら違う雰囲気でも撮れたかもしれない。（撮影：そのみん）



のりり先生のお手本。メダイチドリ、キョウジョヨシギ、トウネンの群れ。F5.6、SS1/1250、ISO320、領域拡大AFで撮影。飛ぶ群れの中央の被写体にピントがバッチリ合っている。

お知らせ（活動報告）

2024年10月5日（土）法人会員の三井住友海上火災保険株式会社青森支店の社員とその家族の皆さんが、社会貢献活動として仏沼野鳥観察ステーション周辺のごみ拾いにいらっしゃいました。オジロワシも舞う秋空の下、交流を深めました。



..... NPO 法人おおせっからんど 会員募集中

特典：会報の送付（年に3回程度）・EメールかLINEでのイベント情報提供/年会費：サポート会員2000円、正会員5000円、法人会員制度あり。申込は事務局まで。

鳥の展覧会レビュー 「捕食者の献立」

2024年9月28日（土）～12月1日（日）、岩手県立博物館で、企画展「捕食者の献立」が開催されました。企画担当は、当NPO 法人理事でもある、高橋雅雄学芸員です。

同博物館は、良質な動物の剥製を多く所蔵することで知られます。この展覧会では、その剥製が多数展示されました。普段、一同に会することはない鳥や動物が同じ空間に、そして至近距離に並ぶのは博物館ならではの大きさの違いは一目瞭然、羽の模様の特徴や質感までも間近で観察することができました。生き物の特徴が「食べるもの」に由来することをわかりやすく学べました。人間の捕食として学芸員の食生活が展示されていたのもユニーク。皆様、年末年始、健康的な“捕食”を!!（大澤苑美）



制作発行：特定非営利活動法人おおせっからんど
〒031-0823 青森県八戸市湊高台三丁目15番5号
Mail: mori.degawa@gmail.com
Web: <http://www.oosekka.com>
編集：蟹沢格 紙面デザイン：大澤苑美

編集後記：

2024年はダム工事や演劇上演・交流会開催など、様々な活動が積極的に行われた1年でした。新年もどうぞよろしくお祈りします。（蟹沢）寒い季節の野鳥観察のために、長靴用の厚め・ふわふわの中敷を買いました。次はカメラの操作もしやすい、いい穴あき手袋を買いたいです。（大澤）